

うちどく 家読のススメ

～家族みんなで読書の時間～

子どもが「本を読む」ということは、「言葉」を学び、「知恵」を養い、「想像力」を高めてくれます。本は、子どもの成長には欠かせない重要な役割を果たしています。

しかし、今の子どもたちの生活時間は、学校で過ごす時間を除くと、テレビやインターネットを見たり、ゲームや習い事などをしたりする時間が大半を占めています。時間に余裕がない「忙しい子ども」が増えているため、必然的に家族で過ごす時間は、非常に少なくなります。その少ない時間の中で、家族で本を読む時間はどれくらいあるのでしょうか。

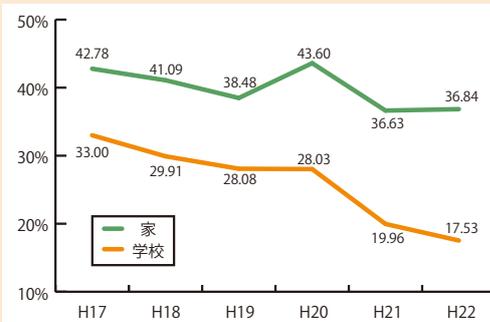
今月号の特集は、子どもが早い時期から本に触れることで受ける影響力や、図書館が勧める「家読」、そして、各年齢で読むお薦めの本などを紹介します。

お父さんやお母さん。子どもの前でも本を広げて、一緒に読んでみてください。何ともいえない笑顔を見せてくれ、子どもには、成長に必要な力が備わります。

アンケートでは…

七尾市では、平成17年から読書に関するアンケートを実施しています。いろいろな質問がある中で、学校と家庭での読書時間に注目してみましょう。

学校と家庭であまり本を読まない児童
(小学校3年生・5年生を合計した場合)



学校と家で、あまり本を読まない児童を示したグラフを比べると、家で本を読まない児童の割合が高いことがわかります。

ほんの少し、家読を！

そこで、家族と過ごす時間で、ほんの少し『読書の時間』を作ってみませんか？一番信頼している大人と一緒に

読書をすることで、子どもは安心して『本の世界』を楽しむことができます。

家読とは…

家族で同じ本を読む、あるいは家族それぞれが違った本を読みながら、同じ読書の時間を共有することです。家族で本を読み、感想を話し合うことができかけとなつて、会話が広がり、家族の絆が深まるという効果があります。

うちどくノート

このノートに、家族で一緒に読んだ本の感想や、家族のコメントを記入することで、家族の読書や成長の記録を残すことができます。「うちどくノート」は、各図書館の窓口にあります。また、小・中学校にも配布しましたので、ぜひ、ご利用ください。

